

集中治療室(ICU)

重病人が救急車で運び込まれ「今、ICUで治療中です」。こんな言葉をドラマや漫画、そして現実のニュース番組でも見聞きすることがあります。ドラマなどでは、医師が重苦しい表情で家族らに容体を説明し、登場人物が亡くなったり、奇跡的に助かったりするシーンを目にします。集中治療室(ICU)は、このようなイメージではないのでしょうか。

ICUは院内の外来、病棟、手術室や他の病院から「容体の重い人」を受け入れて、元気な状態に戻すために治療を尽くす場所です。救急車で運ばれてきた重症者も、いったん救急外来で処置を受けてからICUに入ります。一般的に、救急車が直接ICUに乗り付けることはありません。命に関わる容体の場合は通常の治療に加え、人工呼吸器や血圧・脈拍を調整し安定させる薬、透析器、感染症や炎症を抑える抗生剤やステロイド、さらには、さまざまな治療の際に苦しくないようにする鎮静薬を使います。救命のために行うる全ての手段を総動員して治療に当たります。



なかむら としあき 中村 利秋

救命と社会復帰 目指す

長崎みなとメディカルセンター
集中治療科主任診療部長兼集中治療部長
(長崎市新地町)

診療科の区別なく、深刻な病状に対し、濃厚な治療の効果が望めると判断される場合にICUに入ります。

ドラマなどの影響で、ICUに入ると、それだけで「もうだめかもしれない」と思ってしまう人がいるかもしれません。しかし、ICUで患者さんが助かることは決して奇跡ではなく、日々進歩している医療の成果です。ICUは、患者さんを生還させるための場所といえます。

治せない病気や致命傷で、不幸にして助けられない患者さんもいます。しかし病状によっては、ICUに入ること救命の可能性が高くなることもあるのです。

容体が悪いため、また鎮静薬を駆使して苦痛を感じないようにして治療を行うため、患者さんはICUに入っている間のことを、ほとんど覚えていないことが多いです。それでも、ICUに入室していた患者さんが元気になり、あいさつに來られると、とてもうれし

としています。しっかりと状態を監視、管理し治療に当たることがある患者さんが対象のため、一般病棟と比べ看護師も手厚く配置されています。

急性期だけでなく、慢性期や終末期であっても、状況によりICUに入ることがあります。例えば、長らく持病を抱えている患者さんや、緩和ケアを受けている、がん患者さんも入室する可能性があります。基本的に

世界に先駆け、超高齢化社会を迎えるわが国において、ICUに入る患者さんの年齢も高くなりつつあります。高齢者は急速に筋力が衰え、一命を取り留めたとしても日常生活が困難になることが多く、生活の質は著しく損なわれることになりま。これからは集中治療後、いかに入院前と同等の身体・精神機能に回復させていくかが、取り組むべき極めて大きな課題です。